

慈雲

21号

2011/12

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺

慈雲会

〒604-8214

京都市中京区新町通蛸薬師下る

百足屋町375番地

TEL/FAX (075)221-4616

zuirenji@nifty.com

<http://www.zuirenji.net/>

SinsyuuOotaniha

JiunzanZuirenji

Jiunkai



沙門目連
及富樓那
從空而來
為王說法
不可禁制

【『觀經』の言葉】

沙門目連しゃもんもくれんおよび富樓那ふるな、空より来りて、王の為に法を説かしむ。禁制すべからず」と。

今回も門番が、アジャセ王の問いに対して微妙に言い逃れをしています。

「仏弟子のモクレンとフルナが、幽閉されている王のもとへ空中から飛んできて説法するので、私ではどうしようもありません。」

門番は、先代の王を慕って、密かに食べ物運ぶイダイケ夫人の行動にも、お釈迦さまが遣わした弟子たちの来訪にも見て見ぬふりをしてきましたが、今度は我が身にアジャセ王の怒りが向きかけたので、そらすためにこのように答えるのです。

私たちが人間はどこまでもわが身が一番かわいい生き物だということを知られます。

【誓いの辞】

ただ今、ご本尊の御前において、帰敬式を受け、法名を頂きました。

常にもまして厳肅な気持ちで「三帰依文」を唱和し、仏・法・僧の三宝に帰依する事を、あらためて心に刻みました。

振り返り、考えますに。

不思議なご縁に導かれ、今日、この日を迎える事になったと、思っております。

真宗門徒の末席を汚す凡夫ではありませんが、今ここに、

「南無阿弥陀仏」を言葉に、

「正定之因唯信心」を心中に、

多くの先達、同朋とともに、

阿弥陀さまの本願を受け、

宗祖のお言葉を頼りにし、

お釈迦さまの教えを日々学んで行くことを誓います。

平成二十三年十一月十三日

受式者 長塩 浩史

釋風航

【帰敬式によせて】

十一月十三日に報恩講に引き続き、帰敬式が執り行われ、九名(内一名の方は、自宅にて)の方が受式されました。

今回の『慈雲』は帰敬式の特集号にさせていただき、御住職が考えられました各人の法名とその由来などをご紹介したいと思います。

紙面の関係で、四名の方々のみの掲載となりますが、他の方々は次回以降の『慈雲』でご紹介させて頂きたいと思えます。

法名 釋

颯舜

蜂須賀 舜治さま

「颯」の字にははやて、疾風、もの盛んなさま、清らかなさまなどの意味があります。

颯爽という言葉もあります。

本願の念仏の教えにも、疾く、はやく、という特徴があります。特に親鸞聖人は、龍樹菩薩の教えによるところが多く、その中に「即」ということを大事にされました。

『正信偈』には「自然即時入必定」とある通りです。

私たちが自らの力で修行して、覚りに近づこうとするならば、それは即というわけには行きません。三大阿僧祇というはかり知れないほどの長い時間がかかるとされています。

しかし、阿弥陀仏の本願に出会うならば、その出会った瞬間、それがそのまま私たちがお浄土に生まれる時であるのです。他力のゆえであります。

法名 釋

尼慧聲

蜂須賀 致恵子さま

『佛説無量寿經・上卷』(『真宗聖典』三十八ページ)の中にある言葉

「諸通慧聲」

(諸通慧の声)からとりました。

阿弥陀仏のお浄土には宝でできた池があるとされています。その池の水面に波が立つときにいるいろいろな声が聞こえたと教典には記されています。その中のひとつがこの諸通慧の声です。智慧の声ということですが。

私たちがお念仏の教えに出会うことができるのは先達の智慧の声によります。蓮如上人はそれを”よきひとの仰

せ”といっておられます。求道の生活においてには欠かせないものです。その智慧の聲が私たちにはどのような聞こえでしようか。目覚めよ、と呼びかけてくださるのです。

それでは、目覚めた側の人の言葉を少し見てみましょう。親鸞聖人は自らのことを「愚禿」と言っておられます。師の法然上人は「愚痴の法然房」といわれています。あれほどの方がそのようなおっしゃるのは、それぞれが智慧の声に出会っておられるのです。出会ったからこそ自らのことを見る目が開かれて、愚者の自覚となつて表現されるのです。

法名 釋 尼靜聲

じょうしやう

増田 重子さま

『佛說無量壽經・上卷』（『真宗聖典』三十八ページ）の中にある言葉

「或寂靜聲、」

（あるいは寂靜の聲、）
からとりました。

阿弥陀仏のお浄土には宝でできた池があるとされています。その池の水面に波が立つときいろいろな声が聞こえたと教典には記されています。その中のひとつがこの寂靜の聲です。寂しいとい

う字と静かなという字からなっています。寂靜とは仏さまの悟りの境地・涅槃のさとりを表す言葉です。煩惱を絶ち、あらゆる苦しみから離れた境地はどこまでも静かです。

ひるがえって、わたしたちのこころはそれとは程遠く、いつも騒がしく静かになれるときがありません。それを静めようとしてみるのですが、長続きしないどころか、かえってざわつきが増すばかりです。

しかし、仏さまはそのような人間を救うために本願を建てられました。自分で心を静めることの出来ない私たちこそがその本願のお目当てなのです。

その仏さまの声をどこまでも聞き開いていくとき、いつのまにか、自分の心が何があつても寂靜になつていくことに気づくことがあるでしょう。

法名 釋 尼和敬

わきやう

黒川 ユキさま

『佛說無量壽經・下卷』（『真宗聖典』五十六ページ）の中にある言葉

「修六和敬、常行法施」

（六和敬を修し常に法施を行す。）
からとりました。

和敬とは、修行者がお互いに和同愛敬することです。

今日こそ私たち人間は手を取り合つて生きていかなければなりません。しかしそれはなかなか難しいことです。仲良くなつたらなつたで、自分たちの仲間以外の人を疎外したり、またはまったくそういうわずらわしいことは避けて、閉じこもる人も多い時代です。

そのような時、本心に和合することが出来るのでしょうか。

本願のお念仏ひとつが明らかになれば、そこには「四海のうち皆兄弟」（論註）という世界が開かれます。それは気に入つた人同士が集まるといふことではなく、あらゆる人々、そして生きとし生けるものすべてと心を通わすことが出来ます。

その際に必要なことは対話です。議論や、相手をやりこめる為でなく、ただ相手の言葉を聞き、そして自分の考え、思いを述べるのです。

文明が進むほど人間同士のつながりが希薄になつていく現代ですが、今こそ親鸞聖人が明らかにしてくださつた教えを聞くわたしたちには、個々にバラバラになつてしまったものをつなぐ役目があるのです。

【帰敬式を受式して】

瑞蓮寺には子供のころより、伺ってはいたのですが、家族の法事でお参りさせて頂いている程度でした。

それが、六年程前に慈雲会の役員をさせて頂くことになり、お寺へ伺う機会が増え、それまで敷居の高かったお寺が身近に感じられるようになりましたが、真宗については、まだ、全く解っていない状態でした。

三年程前に瑞蓮寺で帰敬式を行うことになり、御住職に受式を勧められました。が、真宗の教えについて何の知識もない自分としてはその気になれず「三年後に、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌が有るので、その年に」と返答しました。表向き「何かの行事がないと、歳を取っていつ受式したのか忘れてしまうので」と言っておりましたが、内心は仏弟子になることに不安があったと思います。

それから三年間、山城一組の勉強会に参加したり、色々な本を読んできました。そこで思ったことは、真宗とは世間一般の生活をし、普通に生きて行き、その中で無理をせず自然な形で教えを学んで行くということなのだ。

仏弟子となることに不安は数多くありますが、帰敬式を受式するということは、小学校に入るがごとく自然な、しかし決意を新たにする区切りの儀式だと思えるようになりました。

帰敬式を受式して、私自身の最初の課題は阿弥陀さまの本願を心の底から信じるということだと思っています。

「正しょうじょう定じやう之の因いん唯ゆい信心しんじん」を忘れないよう誓いの辞で述べさせて頂きました。

お浄土へ生まれることは本願によって定まっているのだから、ひたすら念仏を唱え、阿弥陀さまを信じなさい。これは、今の私にとって大きな課題です。

仏の教えにふれることなく過ごしてきた四十年程の間に、お浄土の存在を見いだせなくなっているからです。

釋風航の由来の中で御住職は他力とは「仏さまと【二人三脚】ということではないかと思えます。」と仰って頂いています。

これは、仏弟子になることを決意したのに、お浄土が見いだせない私にとってなによりのお言葉です。

「煩惱しか持たない私」ということすら判らない自分のそばで、常に仏さまは問

いかけてくださっているのだと。

仏さまを身近に感じ、教えを学び、常に暖かな心で人と接することのできるよう。そして、許されるなら次の御遠忌には自然と本願を信じ、法要を勤めることができる事を今は願っています。

釋風航

【お知らせ】

○十二月二十日（火）午前九時より

仏具のお磨みがきをいたします。

【編集後記】

本年は宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌の年でしたが、色々な行事があったと言間に過ぎ、残すところわずかとなりましたが如何お過ごしでしょうか？

先の見えない不安な世の中が続いておりますが、来年も皆様お変わりなくお元気で過ごされる事を願っております。

長塩浩史

瑞蓮寺のホームページができました。皆様一度ご覧下さい。

<http://www.zuirenji.net/>